

看護補助者確保に関するアンケート

令和3年11月1日

実施日 : 令和3年10月15日実施
実施方法 : FAXによる調査
対象 : 200床以上の病院30か所（無作為抽出）
回収率 : 回収率83%（回収25病院）
結果

問1 看護補助者の雇用形態 複数選択

①非正規職員として直接雇用	19	58%
②正規職員として直接雇用	8	24%
③派遣社員	5	15%
④看護補助業務を業務委託	1	3%
⑤現在、補助者を活用していない	0	0%

問2 補助者数

平均人数 N25

①令和3年4月 補助者数	25.5
②令和3年10月 補助者数	27.7

問3 補助者の充足度

N25

①充足している	6
②不足している	19

N18

補充したい人数	1人	1
	2人	5
	3人	7
	4～5人	2
	7～8人	1
	10人	2

問4 看護補助者人材の定着化を図るため、こういった課題があるか

賃金等低い

正規職員としての雇用形態がない

責任の所在について、看護師側の意識、知識が低い。

短時間勤務等、多様な働き方に対応することが課題

業務移譲のルールが不明確

新規採用者の育成。

定着しない理由として、イメージしていた業務と違うこと

業務内容（日常生活補助よりも事務的作業を選択する傾向にある）

高齢化が進み、力仕事を軽減する環境作りが必要

職場風土（人間関係、話しやすさなど）、仕事に対するやりがい、モチベーション

問5 看護補助者人材の確保等に関する意見や要望等

補助者の研修会や交流会（地域毎でも）を通して、他の施設の現状を知ったり意見交換ができる場

看護師同様に指導担当を明確にする。

病院内での看護補助者の位置づけ、職種としての位置づけを明確

補助者業務は多岐にわたり複雑な業務であり、アルバイト感覚で、できることではな就業若い方にも看護補助者の仕事を知ってもらいたい

看護補助者の夜勤ができる人材確保

ハローワークや病院のホームページ等で募集しているが応募者がいない

看護補助者として就労を希望する人を人材派遣会社に雇用させ、看護補助者の求人を行っている医療機関に派遣。派遣期間終了後は派遣により就労中の人と医療機関の双方の合意により医療機関が直接雇用し、看護補助者として継続して就労をする事業を実施している県がある。このような支援事業がほしい

人員確保に苦慮している。看護補助者のバンクの様なものがあれば良い

多数が未経験者あり、就業前のトレーニング等をしてほしい

期間として職場での実習システムがあったら良い